

2015年度 前期		リフレクションペーパー				
学科名	建築・デザイン学科					
科目名	建築設計Ⅰ					
科目区分	専門科目	単位数	3単位	開講時期	2年次前期	
必修・選択の別	必修科目(建築工学コース)／必修科目(建築コース)／選択科目(デザインコース)					
担当者	益田 信也、小池 博、石田 聖一、森崎 浩					
授業の到達目標 (シラバスから)	・「みせる図面」と「つくる図面」の表現と基本的な製図法が理解できる。(A7) ・対象となる建築物の設計に関する情報を収集・分析できる。(B6) ・与えられた条件を理解して、計画課題と設計条件を設定できる。(B6) ・コンセプトを立案して基本的な空間を構成し、建築物として形態決定ができる。(B6) ・具体化された建築物を他者に伝達できる的確な図面として表現できる。(A7,B6)					
日程と内容	4/8 導入講義：授業の進め方と概要の説明、成績評価の方法 ／課題1「森のギャラリー（木造）」の説明、製図法および木造の解説 4/15 コンセプトの立案、空間構成と配置計画 4/22 コンセプトの発表とエスキス、架構計画と設備計画 4/25 エスキスの展開、エスキスレポート・架構スタディ模型提出 5/13 エスキスの完成、製図 5/20 図面提出、プレゼンテーションと講評会 5/27 課題2「コートハウス（RC造）」の説明、資料収集とコンセプトの立案 6/3 コンセプトの発表とエスキス、空間構成と配置計画 6/10 エスキスの展開、構造計画と設備計画 6/17 エスキスの完成、エスキスレポート提出 6/24 製図、講評 7/1 図面提出／模型および模型写真について 7/8 模型製作、模型写真の撮影 7/15 模型および模型写真提出 7/22 プレゼンテーションと講評会					
成績評価基準	定期試験	0%	実技	0%		
	臨時試験	0%	部外評価	0%		
	報告書・レポート	0%	プレゼンテーション	10%		
	課題	75%				
	演習	15%	計	100%		
授業到達目標の達成度	課題をすべて提出できた学生は、程度の差はあるものの到達目標を達成できたと判断している。程度の差は、計画コンセプト、空間構成、プレゼンテーションの魅力や精緻である。合格率約9割(89.6%)は昨年の84.6%と比べてかなり向上している。なおかつ、秀評価の優秀な課題作品が数多く提出されるなど、合格者の平均点は77.0点と昨年の72.8点をはるかに上回る成果を得ている。					
反省点	シラバスを改訂して2年目の運営であり、昨年に比べて取り組み易かったが、教員メンバーが変更になり(専任1名追加、非常勤1名交代)、十分なコミュニケーションが図れたかが課題である。例えば、課題の設計条件の変更による課題作品の評価等。 また、毎回の演習についてくることができない学生が少なからずいて、無断欠席や履修放棄の結果不合格となった。カリキュラム改訂で今後受講生はさらに増えることになり、きめ細かな対応が必要である。					
来年度の計画	本年度教員4名態勢で試行的に授業を運営したが、成果が著しいため来年度以降は恒常化していきたい。 また、初学の学生にも取り組み易いように、配付資料や演習のメニュー等の改善を今年度と同様に重ねていきたい。特に、親しみ易く構想に取り組めるように、スタディ模型の製作を課して、空間構築の基礎を養えればと担当教員グループでは検討している。					
授業評価アンケートに対するコメント	総合評価は8.2点と昨年度の7.6点から大幅に向上している。担当教員が3名から4名に増員したこと、新規の2名の教員の指導が優れていたこと、の2点が主な原因と考えている。ただし、一部のアンケート項目(説明のわかりやすさ、資料の提示の明瞭性、シラバスどおりの進行、学生の授業への集中度)で全科目の平均値より低い点数があり、この点については改善していく必要がある。 なお、「効率が悪い」という評価がある一方で、「細かく丁寧に指導してもらえた」という評価があり、これらはトレードオフの関係にあり、一概にどちらを優先すべきか判断が難しく、今後も学生の能力等見極めながら、調整していきたい。					
履修登録者数	77 名	定期試験 受験者数	試験はしない	合格者数	69 名	合格率 89.6%